

令和 3 年 8 月 6 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02426

研究課題名（和文）空間的同化論およびヘテロローカリズム論からみた在留外国人の居住地の地理学的検討

研究課題名（英文）Geographical investigation of Japan's ethnic enclaves based on spatial accumulation and heterolocalism

研究代表者

石川 義孝（Ishikawa, Yoshitaka）

帝京大学・経済学部・教授

研究者番号：30115787

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、5国籍の外国人住民による8つの事例集住地に関する比較研究を行った。これらの集住地の状況を、2015年国勢調査の外国人の個票データを主に用いて、同一の凡例による集住地の地図化や、関連する主要指標に関する表の提示を行った。参与観察や聞き取り調査の成果も適宜利用した。得られた知見を総合して、外国人の集住地形成に関する重要な説明的枠組みである、空間的同化論とヘテロローカリズム論の日本での適用の可能性を検討した。その結果、前者は韓国・朝鮮国籍のオールドカマーの集住地にだけ妥当するが、後者は多くのニューカマーによる集住地にあてはまる、という結論を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の在留外国人に関する既往研究の大部分は、特定の国籍の外国人によって形成された単独の集住地のみを扱う傾向が強く、集住地の比較研究は未着手の状態にあった。本研究では、2015年国勢調査の個票データを主に用いて、様々な観点からの比較を試みた。成果として刊行した "Ethnic Enclaves in Contemporary Japan"（Springer）は、外国人集住地に関するわが国では最初の包括的な研究成果である。日本の人口減少に対する処方箋として、外国人の受け入れ拡大が重要である。国内の外国人の定住に関する実情の正確な把握が、こうした方向の実現に不可欠である。

研究成果の概要（英文）：In this research, we conducted a comparative study on eight ethnic enclaves formed by foreign residents of five nationalities (China, Korea, Philippines, Brazil and Turkey). These enclaves were mapped with the same legend using the microdata of foreign residents from the 2015 census, and several enclave-related data were tabulated in a comparative manner. We also used the results of participant observations and interview surveys. Based on the obtained findings, we examined the possibility of applying existing explanatory frameworks, specifically spatial assimilation and heterolocalism, to the ethnic enclaves of contemporary Japan. Consequently, we concluded that the former is applicable only to the enclaves of Korean oldcomers, while the latter is applicable to those of many newcomers.

研究分野：人口地理学

キーワード：外国人 居住地 集住地 個票データ 地図 空間的同化 ヘテロローカリズム

## 1. 研究開始当初の背景

わが国の総人口は2008年にピークに達し、以後減少している。人口減少国となった日本が目指すべき方向は、出生率の改善と国際人口移動の流入超過である。しかし、前者はこれまでの多大な政策的努力にもかかわらず、顕著な成果が見られていない。それに対し、後者の国際人口移動の流入超過、すなわち外国人の受け入れは、国連による2001年の「補充移民(replacement migration)」に関する報告書で表明された方向に合致しており、現代の日本に有効な視点を提供している。この方向は、出生率改善という方向に比べ、短期的あるいは即効的な効果を期待できるというメリットがあるからである。

ところで、日本における外国人は、1980年代後半以降、徐々に増加し、住民基本台帳によると、2015年には223万人に達していた。これは、わが国における国際人口移動の流入超過が、数字上は、順調に推移しているという印象を与える。しかし、わが国で増加している外国人は、ホスト国である日本の社会に、はたしてうまく定着しているのだろうか。これについては、社会学の分野を中心に一定の研究成果がある。この場合の同化とは、ホスト国での滞在が長期化するにつれて、日本国内の外国人が、言語・習慣・消費や社会経済的地位が、日本人に近づいていくという見方である。

ところで、ホスト社会への移民(ないしは外国人)の同化を検討する地理学的視座としては、米国で誕生した空間的同化論(Massey and Denton, 1985)がある。これは、移民は当初はホスト社会の一部、特に都市内のインナーシティに集住し定着するが、社会経済的地位が上昇すると、そうした集住地を離れていく、という見方をさす。さらに、これを発展させたヘテロローカリズム論(Zelinsky and Lee, 1998)は、移民はホスト国に入国後、必ずしも集住せず、都市、地域、国家、グローバルといった様々な空間的スケールで分散居住するという見方をとる。これらの説明的枠組みは、近年の欧米諸国における移民の地理学的研究の注目すべき論点となっている。しかし、わが国の地理学分野における既往研究の多くは、外国人の特定の集住地を取り上げており、個別の事例報告を超えて、既存の枠組みの日本国内での妥当性を広く検討する研究は、ほとんど皆無であった。

## 2. 研究の目的

人口減少国となった日本にとって、国際人口移動の流入超過、すなわち外国人の受け入れは、きわめて重要な政策課題となっている。日本におけるエスニック・マイノリティとしての外国人は、1980年代後半以降徐々に増加しているが、彼らの日本社会での定着が円滑に進んでいるかどうかを、居住地に焦点を置いて研究した地理学的成果は、わが国ではいまだほとんど見られない。そのさい、特に国内に見られる外国人の集住地がどのような要因によって形成されたのかが、この疑問を解く重要な鍵となる。以上の問題意識から、本研究は、国内の集住地から事例を選定し、そこでの居住実態の解明を通じて、移民あるいは外国人の居住地選択に関する主要な説明的枠組みである、空間的同化論およびヘテロローカリズム論の日本での妥当性の検証を目的とする。

## 3. 研究の方法

上記の研究目的を達成するために、本研究ではまず、政府統計を用いて、国内の在留外国人の居住状況を把握した。次いで、主に米国における移民の集住地形成に関する既往研究のレビューを行った。

さらに、事例集住地として、5つの国籍の外国人住民によって形成された、12の自治体に見られる8つの集住地を選定した。これらの自治体とは、中国国籍については、東京都豊島区、埼玉県川口市・蕨市、韓国・朝鮮国籍については、大阪市生野区、東京都新宿区、フィリピン国籍については、愛知県名古屋市、静岡県焼津市、ブラジル国籍については、静岡県浜松市中区・東区・南区、トルコ国籍については、愛知県北名古屋市・豊山町、である。これらのうち、最後のトルコ人の事例は、明確な集住をまだ示しておらず、現在は集住地形成の途上にあると考えられる。

さて、事例集住地の比較のための重要なデータソースとして、2015年国勢調査の外国人個票データを総務省統計局の統計データ利活用センターから入手し、各集住地における各国籍の外国人の人口比率を、町丁単位の地図で示した。これらの地図は、縮尺を揃えとともに、外国人人口比率の階級区分を同一にした。また、同じ個票データを用い、「人口と就業」、「5年前の住所」、「現住地での滞在期間」、「主要な職業」、「通勤」、「国際結婚」という、集住関連の6つの重要指標に関する表を作成した。これらの地図や表からの知見を、集住地における参与観察や外国人住民への聞き取り調査から得られた知見とあわせ、成果のとりまとめを行った。

#### 4. 研究成果

本研究は、2017～2020年度の4年間に及んだ。この研究期間を二分し、前半の2017～2018年度には、国内在住の外国人の居住地の把握、後半の2019～2020年度には、事例集住地の分析を通じた空間的同化論およびヘテロローカリズム論の日本における経験的妥当性の評価、という異なる課題を設定した。

##### 2017～2018年度

『国勢調査』（2015年国勢調査の外国人個票データを含む）や『在留外国人統計』などのデータを用い、都道府県、市区町村、町丁字といった複数の空間レベルにおける外国人の居住状況を地図化する作業を行った。国内在住の外国人の居住地に関する実情の把握には、まず、どのような属性をもった外国人がどこにどれだけ居住しているのか、という基本的な事実の確認が不可欠だからである。その成果として、多数の地図を各項目ごとの短い解説文とともに掲載した、石川義孝編(2019)『地図でみる日本の外国人(改訂版)』（ナカニシヤ出版）、を刊行した。この地図帳から得られた主な知見を述べると、外国人の分布は、3大都市圏を中心としており、地方圏では少ないという傾向が顕著である。前者では外国人住民の在留資格が多様であるが、後者では技能実習など少数の在留資格に偏る傾向がある。

人口減少時代を迎えた日本では、外国人の受け入れが重要な政策課題となっているが、この地図帳は、国や地方自治体の外国人関連施策に関わっている政策担当者を、重要な読者として念頭に置いて作成されたものである。その意味で、本研究の本来の成果というよりは、研究の社会的貢献として刊行されたという面が強い。

##### 2019～2020年度

移民の集住地形成に関する、主に米国で刊行された既往研究のレビューの成果として、石川義孝(2019)『エスニック集団の都市内集住地に関する研究動向』米国での成果を中心に、立命

館地理学、31、1-12 頁、を刊行した。この中で、Massey and Denton (1985)や Zelinsky and Lee (1998)を詳しく紹介して、空間的同化論およびヘテロローカリズム論という、移民の集住地に関する説明的枠組みが生まれた経緯や、その後におけるこれらの枠組みの評価をまとめた。

さらに、事例集住地の分析で得られた成果の詳細は、2021 年 4 月に刊行された Ishikawa, Y. (Ed.) *Ethnic Enclaves in Contemporary Japan*, Springer、にまとめた。この英文編著には、代表者・分担者の全員が寄稿している。成果の内容は多岐にわたるが、その骨子を述べれば、以下ようになる。

集住地の具体的な状況は国籍によってかなり異なるが、現代の日本に見られる外国人の集住地では、外国人人口は概して少ない。町丁単位でみた、総人口に占める当該国籍の外国人人口の比率は高くない。2015 年国勢調査時点で、事例集住地が位置する自治体における当該国籍の人口が多い上位 4 つの集住地は、生野区の韓国・朝鮮人の 14,252 人、豊島区の中国人の 11,393 人、川口市の中国人の 9,840 人、新宿区の韓国・朝鮮人の 8,744 人である。集住地の空間的範囲は、当該国籍の外国人人口比率がおおむね 5%以上の比率を示す町丁とみなして差し支えないであろう。この比率が 20%を越す町丁は、生野区における韓国・朝鮮国籍のオールドカマーの集住地などで、ごく少数見られるに過ぎない。集住地の面積も概して小さい。

また、外国人が集住地を形成する理由は多岐にわたるが、既往研究で指摘されてきた外部要因（エスニック・マジョリティによる差別や偏見から逃れるための、エスニック・マイノリティのやむない集住）と内部要因（当該のエスニック・マイノリティの相互支援や文化的伝統の維持の必要性から生じる自発的な集住）の双方の理由がよくあてはまっている。

さらに、外国人の集住地形成に関する既存の説明的枠組みの、日本への適用可能性を検討した。その結果、伝統的な空間的同化論は、生野区にある韓国・朝鮮人のオールドカマーの集住地にのみ妥当することが判明した。ただし、埼玉県川口市や蕨市の中国人や、新宿区の韓国・朝鮮人のニューカマーによる集住に関しては、Wright et al. (2005) が提起した修正空間的同化論が妥当している可能性がある。これらの 3 つの集住地の外国人住民における最多の職業が専門的・技術的職業となっており、社会経済的地位が高いからである。一方、ヘテロローカリズムの枠組みは、日本の多くのニューカマーによる集住地にあてはまっている、と言える。

最後に、本研究の残された課題として、国内の人口が 1 万人に満たない、人口の少ない国籍の外国人の集住の状況を解明すること、本研究で明らかになった日本の集住地を海外の集住地と、既往文献を使って比較する作業がなされる必要があること、本研究で明らかになった外国人集住地が、人口減少時代を迎えた日本にいかに関与しうるかに関して検討すること、の 3 点を挙げた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件（うち査読付論文 21件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 16件）

1. 著者名 Yoshitaka Ishikawa	4. 巻 7
2. 論文標題 Internal Migration in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Bell, M. et al. (Eds.) Internal migration in the countries of Asia: A cross-national comparison, Springer	6. 最初と最後の頁 113-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-030-44010-7_7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 石川義孝	4. 巻 56
2. 論文標題 【学界展望 特集：最近10年間の人口学研究の動向】人口移動分野	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人口学研究	6. 最初と最後の頁 35-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24454/jps.2003002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Yoshitaka Ishikawa	4. 巻 1
2. 論文標題 Introduction	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Y. Ishikawa (Ed.) Ethnic enclaves in contemporary Japan, Springer	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-33-6995-5_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Yoshitaka Ishikawa and Kazumasa Hanaoka	4. 巻 2
2. 論文標題 Overview of ethnic enclaves as example cases	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Y. Ishikawa (Ed.) Ethnic enclaves in contemporary Japan, Springer	6. 最初と最後の頁 17-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-33-6995-5_2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kiyomi Yamashita	4. 巻 3
2. 論文標題 Chinese enclaves: Formation of new Chinatowns by Chinese newcomers	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Y. Ishikawa (Ed.) Ethnic enclaves in contemporary Japan, Springer	6. 最初と最後の頁 45-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-33-6995-5_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Taku Fukumoto	4. 巻 4
2. 論文標題 The contrasting enclaves between Korean oldcomers and newcomers	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Y. Ishikawa (Ed.) Ethnic enclaves in contemporary Japan, Springer	6. 最初と最後の頁 71-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-33-6995-5_4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sachi Takahata	4. 巻 5
2. 論文標題 Filipino enclaves as products of migration industry: Cases in a big city's downtown and a port city's coastal area	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Y. Ishikawa (Ed.) Ethnic enclaves in contemporary Japan, Springer	6. 最初と最後の頁 99-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-33-6995-5_5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiromi Kataoka	4. 巻 6
2. 論文標題 Brazilian Residents as Persistent Repeaters and Their Enclaves	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Y. Ishikawa (Ed.) Ethnic enclaves in contemporary Japan, Springer	6. 最初と最後の頁 125-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-33-6995-5_6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shuko Takeshita	4. 巻 7
2. 論文標題 Turkish Residents and Marital Assimilation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Y. Ishikawa (Ed.) Ethnic enclaves in contemporary Japan, Springer	6. 最初と最後の頁 153-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-33-6995-5_7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshitaka Ishikawa	4. 巻 8
2. 論文標題 Conclusion	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Y. Ishikawa (Ed.) Ethnic enclaves in contemporary Japan, Springer	6. 最初と最後の頁 179-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-33-6995-5_8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下清海	4. 巻 13
2. 論文標題 日本における地域活性化におけるエスニック資源の活用要件 - 中華街構想の問題点と横浜中華街の実践例を通して -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 253-269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24586/jags.13.3_253	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高畑 幸	4. 巻 31
2. 論文標題 興行と介護の移住女性労働者 在日フィリピン人の経験から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本労働社会学会年報	6. 最初と最後の頁 30-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福本拓	4. 巻 13
2. 論文標題 韓流ブーム下での大阪・生野コリアタウンの変容 - エスニック・タウンの価値と地域活性化 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 231-251
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24586/jags.13.3_231	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shuko Takeshita	4. 巻 11
2. 論文標題 Halal Certification or Ingredient Disclosure: A Comparative Analysis of Serving Food in Japanese Tourist Destinations	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Islamic Marketing	6. 最初と最後の頁 765-781
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/JIMA-07-2018-0129	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹下修子・花岡和聖・石川義孝	4. 巻 50
2. 論文標題 ヘテロローカリズム論の検証 愛知県のトルコ人の居住パターンに焦点をあててー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知学院大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 65-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡博美	4. 巻 66
2. 論文標題 「多文化のまち」が持つポリフォニックな姿: 「多文化のまち」を街区レベルから読み解く重要性とその際に留意すべき事項についての覚書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済地理学年報	6. 最初と最後の頁 324-336
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 花岡和聖	4. 巻 672
2. 論文標題 資源ブーム前後におけるオーストラリアの人口動態に関する整理	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館文學	6. 最初と最後の頁 50-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川義孝	4. 巻 31
2. 論文標題 エスニック集団の都市内集住地に関する研究動向 米国での成果を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館地理学	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高畑幸	4. 巻 11
2. 論文標題 静岡県焼津市の水産加工業で働くフィリピン日系人 雇用と移住のプロセスを中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 移民政策研究	6. 最初と最後の頁 47-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shuko Takeshita	4. 巻 21
2. 論文標題 Mixed children in Japan: From the perspective of passing	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asian Ethnicity	6. 最初と最後の頁 320-336
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14631369.2019.1639132	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹下修子	4. 巻 48
2. 論文標題 ハラル認証とムスリム観光客誘致 認証取得推進派と非推進派の比較分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知学院大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花岡和聖	4. 巻 666
2. 論文標題 近年のオーストラリアにおける新規流入移民の居住地分布 国勢調査資料を用いた分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館文學	6. 最初と最後の頁 82-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福本拓	4. 巻 64
2. 論文標題 在日朝鮮人事業所の空間的分布と集住地区との関連性 1980年代以降の大阪を事例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済地理学年報	6. 最初と最後の頁 194-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福本拓	4. 巻 29
2. 論文標題 外国人集住地域における多文化共生拠点施設の役割と課題 2018年の入管法改正を念頭に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宮崎産業経営大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山下清海	4. 巻 21
2. 論文標題 南アフリカ、ヨハネスブルグのチャイナタウンの形成と変容 新旧のチャイナタウンの比較研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地球環境研究	6. 最初と最後の頁 63-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高畑幸	4. 巻 36
2. 論文標題 東海地方における移住労働者のエスニシティ構成の『逆転現象』 静岡県焼津市の水産加工労働者の事例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本都市社会学会年報	6. 最初と最後の頁 147-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高畑幸	4. 巻 15
2. 論文標題 離島におけるフィリピン人結婚移民の定住と職業生活 1990年代に来日した女性たちの介護職への従事	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 移民研究	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川義孝・竹下修子・Kao Lee Liaw・花岡和聖	4. 巻 57
2. 論文標題 戦略としての国境を越えた結婚 在米外国生まれの妻と夫の年齢差に基づく検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都大学文学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 135-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 花岡和聖・Kao Lee Liaw・竹下修子・石川義孝	4. 巻 12
2. 論文標題 アメリカ合衆国で暮らす既婚日本人女性の雇用パターンにみる日本の価値規範 日本でのワーク・ライフ・バランス実現のために	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 E-journal GEO	6. 最初と最後の頁 101-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 福本拓	4. 巻 21
2. 論文標題 エスニック・セグリゲーション研究に関する覚え書き 日本での実証研究に向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 空間・社会・地理思想	6. 最初と最後の頁 15-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 石川義孝
2. 発表標題 コロナ禍と日本の地方圏への人口分散の可能性
3. 学会等名 日本学術会議地球環境変化の人間の側面 (HD) 分科会公開シンポジウム「コロナ禍の終息と持続可能な社会の実現に向けた地球環境変化の人間の側面研究の推進」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山下清海
2. 発表標題 シンポジウム「地域活性化におけるエスニック資源の活用」企画趣旨
3. 学会等名 第13回地理空間学会大会 (オンライン開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山下清海
2. 発表標題 日本におけるチャイナタウンからみるエスニック資源の活用とその課題
3. 学会等名 第13回地理空間学会大会（オンライン開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sachi Takahata
2. 発表標題 Jumping over the National Border: Filipino-Japanese Athletes Now and Beyond
3. 学会等名 19th Annual International e-Conference on Japanese Studies "Sporting Japan: Manifestations of a Society in Transition (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高畑幸
2. 発表標題 興行労働者から祖母へ 在日フィリピン人女性の30年
3. 学会等名 移民政策学会2020年度冬季大会シンポジウム「移民政策とジェンダー」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福本 拓
2. 発表標題 韓流ブームに伴うコリアタウンの変容と地域活性化への課題
3. 学会等名 第13回地理空間学会大会（オンライン開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yoshitaka Ishikawa
2. 発表標題 Mapping foreign residents in Japan
3. 学会等名 29th International Cartographic Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川義孝
2. 発表標題 地方圏の人口動向と外国人住民の地図化
3. 学会等名 日本水土総合研究所埼玉セミナー (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下清海
2. 発表標題 世界のニューチャイナタウンと西成中華街構想
3. 学会等名 立正地理学会秋季例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下清海
2. 発表標題 第二次世界大戦後の横浜中華街の変容とその要因
3. 学会等名 日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sachi Takahata and Keiko Yamanaka
2. 発表標題 Nikkei Filipino workers in the Japanese seafood processing industry: History, recruitment and employment
3. 学会等名 18th Annual International Conference in Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石川義孝
2. 発表標題 在留外国人の地図化とその政策的含意
3. 学会等名 立命館地理学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 John Connell
2. 発表標題 Migration, social inclusion and places of difference: Australian cities in the age of Trump and Hanson
3. 学会等名 World Social Science Forum 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ji-Ping Lin and Chyong-fang Ko
2. 発表標題 Multiculturalism and social inclusion: changing migration policies and possible changes in Taiwan
3. 学会等名 World Social Science Forum 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 TAKAHATA Sachi
2. 発表標題 Wives, children and Nikkei's: Filipinos coming to Japan based on the attributions
3. 学会等名 World Social Science Forum 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 TAKESHITA Shuko
2. 発表標題 Social inclusion and exclusion in Japan: from the perspective of intermarrige
3. 学会等名 World Social Science Forum 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 TAKESHITA Shuko
2. 発表標題 Passing children of Brazilian-Japanese Families in Japan
3. 学会等名 The 24th International Conference of the International Association for Intercultural Communication Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下清海
2. 発表標題 南アフリカ、ヨハネスブルグのチャイナタウンの地域的特色
3. 学会等名 日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 片岡博美
2. 発表標題 エスニック・ビジネス再考 ミドル「カントリー」の中のマイノリティ
3. 学会等名 人文地理学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福本拓
2. 発表標題 在日朝鮮人自営業者の空間的分布と集住地区との関連性 1980年代以降の大阪を事例に
3. 学会等名 日本地理学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 石川義孝	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 80
3. 書名 地図でみる日本の外国人（改訂版）	

1. 著者名 Yoshitaka Ishikawa	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 189
3. 書名 Ethnic Enclaves in Contemporary Japan	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山下 清海 (Yamashita Kiyomi) (00166662)	立正大学・地球環境科学部・教授  (32687)	
研究分担者	高畑 幸 (Takahata Sachi) (50382007)	静岡県立大学・国際関係学部・教授  (23803)	
研究分担者	福本 拓 (Fukumoto Taku) (50456810)	南山大学・人文学部・准教授  (33917)	
研究分担者	竹下 修子 (Takeshita Shuko) (60454360)	愛知学院大学・文学部・教授  (33902)	
研究分担者	片岡 博美 (Kataoka Hiromi) (70432226)	近畿大学・経済学部・教授  (34419)	
研究分担者	花岡 和聖 (Hanaoka Kazumasa) (90454511)	立命館大学・文学部・准教授  (34315)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Session "Current situation of social inclusion for immigrants", World Social Science Forum 2018	開催年 2018年～2018年
---	--------------------

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------